

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10625002				
授業名	多文化と異文化理解 B	形態	講義	単位	2
担当教員	ト 雁				
開講学期	2017年度 後学期	曜日・時限	金曜3限		
授業目的	多文化共生時代における異文化理解のための基礎的な知識と思考方法について理解し、異文化コミュニケーション能力・対人コミュニケーション能力向上を目指す。				
授業内容	多文化と異文化理解に関する研究と書籍、異文化間コミュニケーションの方法と問題等についてテーマ別に紹介、概説し、関連するビデオ、報道番組等の視聴を入れて進め、異文化理解の実態や関わる課題と問題点、またその解決の方向について論議する。				
到達目標	多文化共生社会における多様な他者と創造的関係の築きに関して考える。 様々な文化の異なる様相を知り、「他者」と向き合う「自己」を認識する。 異文化理解の認識を深め、国際的出来事について物事の見解力と思考力を高める。 異文化コミュニケーション(他人とのコミュニケーション)の際、取るべき態度や行動について理解する。				
ディプロマポリシーとの関連性	〈DP1-(4)〉 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。				
授業形態	基本的に講義形式で板書の代わりにパワーポイントを使用し、また資料やビデオにより進めるが、課題内容に応じてグループ作業による宿題完成や討論と意見発表の形を取り入れる。活発な学生意見参加型、双方向型の授業形式を重視し、アクティブラーニングを図る。				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各回授業に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。合計15回の授業で、事前学習合計30時間、事後学習合計30時間となる。				
テキスト	『多文化と異文化理解 入門テキスト-社会言語学の視点より-』ト雁 図書出版 2016				
評価方法	授業討論参加と課題完成及び期末レポートにより総合的に評価する。				
評価基準	授業討論参加30点、課題完成(事前事後学習)30点、期末レポート40点 ～59点:不可、60点～69点:C(合格)、70点～79点:B(合格)、80～89点:A(合格)、 90～100点:S(合格)				
試験・レポート等のフィードバック	レポートやグループ討論結果に関する授業中発表と評価、また、S-Navi「クラスプロファイル」を通して成績を反映させる。				
注意事項及び履修条件	大学規定の通り、出席回数は全授業の3分の2以上がなければならない。				
S : 100～90、A : 89～80、B : 79～70、C : 69～60、D : 60未満					
第1回					
事前学習	履修に向けての心構えとして学生心得を読んでおく。				
授業内容	授業の進め方と全授業の見通しの説明、また履修者が臨むべき姿勢に関するガイダンス。それぞれ文化と異文化に関して理解していることを考える。学習グループを編成する。				
事後学習	授業中に指示した課題についてグループでレポート作成の準備をする。				
参考文献	『多文化世界』青木保 著 岩波新書 2003				
第2回					
事前学習	「日本人は...である」「日本は...である」という表現を探してノートにまとめる。				
授業内容	文化の理解。文化とは何か。自国文化や自文化の持つ隠れ構造が対話のコンテキストに置かれて他国や他人を解釈してしまう場合、ミスコミュニケーションが起きやすい。「異文化」という表現の前提は、「自文化」である。				
事後学習	各自日本文化の特徴について理解していることをメモし、授業中に指示した課題についてグループでレポートA4用紙1枚に作成するよう準備する。				
参考文献	『ことばと文化』鈴木孝夫 岩波新書 1973				
第3回					
事前学習	前回授業の内容を復習し、感想が言えるようにする。グループでレポートが提出できるようにする。				
授業内容	日本文化の特質。グループで討論し、代表者が口頭で発表する。グループレポートを提出する。日本文化の特質に関するさまざまな言説について学ぶ。				
事後学習	ノートを整理する。貸出資料を読み、要点をつかめる。				
参考文献	『ことばと文化』鈴木孝夫 岩波新書 1973				

『トルコで私も考えた』高橋由香利 集英社 1996	
第4回	
事前学習	テキスト第1章第1節を読んで予習する上、Web情報や学校のパンフレットなどを調べ、「多文化」「異文化」と「異文化コミュニケーション」がどのように使われ、また、それぞれ何を指しているかをノートに書き、リアクションペーパーによる宿題提出を準備する。
授業内容	異文化の理解。文化人類学者E.ホールが提示した高文脈文化(high context culture)と低文脈文化(low context culture)理論。 グループで配布と貸出資料の要点まとめをする。
事後学習	グループでテキスト第1章第2節の英原文を解読し、クラスで発表するのを準備する。異文化を理解するには何が大事かを考え、ノートに整理しておく。
参考文献	『異文化理解とコミュニケーション1』本名信行ほか 三修社 1994 『多文化共生時代のコミュニケーション力』御手洗昭治 ゆまに書房 2004 『トルコで私も考えた』高橋由香利 集英社 1996
第5回	
事前学習	テキスト第2章を読んで内容を予習し、グループ発表を準備する。訪問セールスの例を観察したりして、会話を記録しておく。
授業内容	課題についてグループ代表者が口頭で発表して、クラスで意見交換をする。 コミュニケーションの民族誌。日・米セールストークの比較から見る比較文化。
事後学習	第2章の要点を整理し、コマーシャル表現の文化的比較をして特徴を書き出す。
参考文献	『異文化理解とコミュニケーション1』本名信行ほか 三修社 1994
第6回	
事前学習	コカコーラCMの日本語版と他言語版を調べ、テーマの宿題をやる。
授業内容	言語生活と比較文化。修辞学と文化。 Coca-ColaのCMを例に東洋と西洋コマーシャル表現の文化的特徴と相違をディスカッションし、宿題を提出する。
事後学習	第3章第1節の英文例を読解した上、ノートを整理し、東洋と西洋のあいさつの違いを考えてメモをする。
参考文献	『コミュニケーションと心理学』吉田章宏・田中みどりほか 川島書店 2005
第7回	
事前学習	テキスト第3章第2節内容とノート内容で予習して、日本語と英語や中国語の尊敬を表す表現に関して知っていることをリストアップし、リアクションペーパーによる宿題提出を準備する。
授業内容	言語生活と比較文化。あいさつ表現、尊敬と親近を表す対人呼称の文化を比較する。
事後学習	日本と英語圏と中国語圏の国(や地域)の尊敬と親近を表す言語表現をリストアップし、グループレポートを作成する。
参考文献	『ことばと文化』鈴木孝夫 岩波新書 1973 『コミュニケーションと心理学』吉田章宏・田中みどりほか 川島書店 2005
第8回	
事前学習	テキスト第3章第3節を読んだ上、「タブーの文化」に関する例を調べ、グループレポートをまとめる。
授業内容	レポート提出。内容に関するクラス討論。 言語生活と比較文化。タブーの文化、東洋と西洋の結婚式。
事後学習	幼少時から親や学校等でどのような「～をしてはいけない」「～をするように」という躰をされてきたかを思い出し、日本の社会的マナーについて考える。テキスト内容を熟読し、ノートを整理する。
参考文献	『講座社会言語科学1 異文化とコミュニケーション』井出祥子・平賀正子編 ひつじ書房 2005 『異文化理解』岩波新書 青木保 著 2001
第9回	
事前学習	第4章を読んで予習して、「先入観」について考え、まとめをメモしておく。
授業内容	ステレオタイプと偏見。自文化中心主義について学び、多文化共生社会においてどのように他者と共生をしていくべきか考える。
事後学習	多文化共生社会における「看護」と「介護」について何が重要かをディスカッションできるように準備する。第4章内容を復習し、ノートを正確に整理しておく。
参考文献	『講座社会言語科学1 異文化とコミュニケーション』井出祥子・平賀正子編 ひつじ書房 2005 『コミュニケーションの心理学』吉田章宏・田中みどりほか 川島書店 2005
第10回	
事前学習	知っている外国の人に対するイメージがあれば、その人の国のイメージに当てはめていないかを考

	え、メモを作る。
授業内容	特定の国の文化に対する観念の東西差。文化的視点による実証研究レビューの幾つか。
事後学習	第5章内容を熟読し、要点と自分が思っていることをノートにまとめておく。
参考文献	『異文化を知るこころ 国際化と多文化理解の視座から』奥川義尚・田所清克・堀川徹 編集 世界思想社 2003 『文化と会話スタイル 多文化社会・オーストラリアに見る異文化間コミュニケーション』ヘレン・フィッツジェラルド著 村田泰美 監訳 ひつじ書房 2010

第11回	
事前学習	再び「異文化」の定義を考え、「インターアクション」の意味を調べ、宿題レポート提出の前準備をする。
授業内容	インターアクション。男・女、他民族など、人と人、文化と文化の間でのインターアクションを考える。
事後学習	「インターアクション」とは何か。それをどのように理解するか。異文化間インターアクションは何が重要か。これらについて、考えていることをレポートにまとめる。 第6章最後提示の事例を読み、文化間インターアクションの視点より問題を考えてみる。
参考文献	『わかりあえる理由、わかりあえない理由』デボラ・タネン著 田丸美寿々訳 講談社 2003 『外国人とのコミュニケーション』初版 岩波新書 1982

第12回	
事前学習	テキスト第7章を読んで予習をし、ドラマや日常生活で見られる言語行動の非言語表現について考えたことをノートにまとめる。
授業内容	ノンバーバルコミュニケーションの文化的比較。しぐさ、距離、接触などボディランゲージの異文化理解。
事後学習	配布資料を読んで復習し、第7章最後の課題をやり、テーマについて考えをまとめる。
参考文献	『人間とコミュニケーション』原岡一馬 ナカニシヤ出版 1990 Multi cultural pedia 異なる文化を楽しみながら学ぶ事典(多文化理解事典)

第13回	
事前学習	第7章課題に関するグループディスカッションを準備する。宿題提出準備をする。
授業内容	宿題提出。グループディスカッションと代表者発表によるクラス討論。 学外講師講義(講師未定):「すべてはひとつ」。JICAの対外支援事業の概説や実践の説明を通し、異文化理解と多文化共生の理解をする。(90分授業の一部担当)
事後学習	テーマの理解を深めると同時に表現能力と集団協働力、また、視野を広げることについての理解と行動につなげることについて考え、学習ノートを整理する。
参考文献	『ことばと文化』鈴木孝夫 岩波新書 1973

第14回	
事前学習	他国のジョークを調べてみて、記録しておく。
授業内容	エスニックジョークと異文化理解。西洋諸国のエスニックジョークを事例として異文化認知の違いを見る。グループで議論する。
事後学習	第8章内容と合わせ他者理解について考えて、ノートにまとめる。全授業のレジュメ、配布資料及び授業ノートを整理して復習する。
参考文献	『異文化を知るこころ 国際化と多文化理解の視座から』奥川義尚・田所清克・堀川徹 編集 世界思想社 2003

第15回	
事前学習	第9章内容を予習し、カナダとオーストラリアとシンガポール、マレーシア諸国の人種と言語政策について調べ、分かることをメモする。期末報告小論文をまとめる。
授業内容	多文化共生社会。マイノリティ的とマジョリティ的立場の理解。多民族国家の共生社会を知る。
事後学習	多文化共生社会での共生に関して、何が重要か、また、自分に何ができるかを考える。「異なり」の文化に対する認識と受け入れについて、考えていることをまとめる。
参考文献	『多文化共生キーワード事典(単行本)』明石書店 2004 『異文化コミュニケーションを学ぶ人のために』細谷昌志編 世界思想社 2006 『異文化を知るこころ 国際化と多文化理解の視座から』奥川義尚・田所清克・堀川徹 編集 世界思想社 2003

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<DP-1> 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。
-----------	--

<DP1- (1) >

日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。

<DP1- (2) >

情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。

<DP1- (3) >

問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。

<DP1- (4) >

人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。